

1990〜

# 「向山式『阿波踊り』指導法」

万糸乱れて！「教える教育」から「ひっぱり出す教育」へ

解説 桑原和彦

# 教育

# 新宝島



(雪谷小学校運動会 1990.6.3)

2月特典

向山洋一教育資料

No. 27

2026  
FEB.

## 揃えないから、全員が輝く ― 向山式阿波踊りからニャティティ ONDO へ ―

桑原 和彦

### 1. なぜ、運動会で「向山式阿波踊り」なのか

若い頃、運動会の表現種目を指導する中で、「練習時間が取れない」「揃わない子が目立ってしまう」といった悩みを抱えてきた。私は、一糸乱れず揃うことこそが表現運動の常識であると捉え、指導してきた。

向山式阿波踊りを初めて運動会に取り入れたとき、正直に言えば、不安がなかったわけではない。人数は100名を超え、練習に割ける時間も限られていた。しかし、指導を始めてすぐに、その不安は杞憂であったと気づかされた。動きがシンプルで、わざ言語も最小限で済むため、指導時間は前年までの15時間から5時間に大幅に短縮されたのである。

さらに印象的だったのは、人数が増えても、一人ひとりの存在が埋もれなかったことだ。同じ動きをしているはずなのに、力強く踊る子、しなやかに動く子、照れながらも必死に表現しようとする子が、はっきりと見えてくる。これは、個別評定を取り入れた成果でもあった。評定に不安や戸惑いを感じていた子どもたちの動きは次第に変容し、表情や手の動きを友達と工夫し合いながら練習する姿が見られるようになった。以前の表現運動では見られなかった変化である。

保護者から「こんなに一人ひとりが見える踊りは初めてです」と声をかけられたとき、向山式阿波踊りが持つ本質的な価値を確信した。

揃えなくても、感動は生まれる。むしろ、揃えないからこそ、子どもは前に出てくる。その実感が、次の出会いへとつながっていった。

### 2. 「一糸乱れず」から「万糸乱れて」へ ― ニャティティソーランの衝撃 ―

2008年6月、札幌 YOSAKOI ソーラン祭りで目にした光景は、今でも鮮明に記憶に残っている。他のチームが一糸乱れぬ演舞を披露する中、私たちのニャティティソーランチームは、日本各地の教師とケニアの高校生が一緒になり、決して揃っているとは言えない動きで踊っていた。ところが、不思議なことに、目が離せなかったのである。

動きはばらばらである。しかしエネルギーは一つだった。「揃っていない」という欠点を補って余りある躍動感があった。この瞬間私たちが長年当然のものとしてきた「一糸乱れずが美しい」という価値観は大きく揺さぶられた。

この衝撃から生まれたのが、ニャティティソーランである。全国に広がる中で、これまでダンス練習を避けてきた子どもたちが、自ら前に出て踊り始める姿が数多く報告された。正解が一つでなくなったとき、子どもは「やらされる存在」から「表現する主体」へと変わっていったのである。

私自身も自校で実践した。音楽を流すだ

けで体が動き出し、低学年の子どもたちが跳びはねながら夢中で踊る姿があった。心と体が解放されていく様子は、見ているこちらまで楽しくなるものであった。

ここで重要なキーワードが「万糸乱れて」である。乱れてよい、違ってよいという前提が、子どもたちの参加を保証した。この変化は、特別な学校だけで起きたものではない。どの学校現場でも、起こり得る変化なのである。

### 3. ニャティティ ONDO 誕生 — 教材は、削るほど強くなる —

ニャティティ ONDO は、「ニャティティの音楽×日本のお祭りの音楽」という発想から生まれた。私たちが目指したのは、授業で使える教材として、リズム感のあるフリーダンスのパーツと、各学年が自由に取り入れられるご当地ダンスを組み合わせることであった。

制作・撮影の過程で何度も確認したのは、指導言を増やせば子どもは動けなくなるという事実である。動きを細かく規定すれば、表情は消えていく。「言葉を削る」「変化のある繰り返し」「動きが分かるイメージ語」「リズムとテンポ」といった授業づくりの要点をベースに制作された。リハーサルから本番にかけて、映像出演した子役の踊りが生き生きとしていく様子を目の当たりにし、教材

づくりの原点を改めて実感した。

### 4. 万糸乱れて、なお美しい — 三つの実践が示すもの —

三つに共通しているのは、完成度を競う踊りではないという点である。指導の中心にあるのは、「どこまで揃えさせるか」ではなく、「誰一人、輪の外に出さないか」である。例えば、動きを細かく指定しない。手の高さや角度をそろえさせない。多少の遅れや違いを、その場で修正しない。こうした判断を教師が意識的に行うだけで、表現運動の空気は大きく変わる。苦手な子や、特別な支援を要する子も、「間違えてはいけない」という不安から解放され、安心して体を動かし始める。

多様性や主体性は、言葉で教え込んで育つものではない。教材そのものに、安心して「出てこられる余白」があるかどうか、すべてを決める。ニャティティ ONDO は、教師が細かく指示を出さなくても成立する構造を意図的に持たせた教材である。音楽を流し、場をつくり、子どもを信じて任せる。それだけで授業が成立するのである。

揃えないという選択が、全員参加を実現する。教師が構えを少し緩めることで、子どもは自然に動き出す。だからこそ今、ニャティティ ONDO なのである。まずは一曲、流してみしてほしい。そこから、授業は動き始める。

# 本資料について

今月の特典映像は、以下の5本である。

- ①「体育館練習」1990年6月1日、雪谷小学校5年
- ②「個別評定」1994年6月2日、雪谷小学校5年
- ③「入退場練習」1999年6月4日、多摩川小学校5・6年
- ④「昼休憩練習」1990年6月3日、雪谷小学校5年
- ⑤「運動会演舞(1)」1990年6月3日、雪谷小学校5年

## 1. 特典映像について

### ◆特典映像①：指導手順

向山式阿波踊りの指導手順はシンプルだ。次の4つのステップだけである。

- 〔第1段階〕足の動き
- 〔第2段階〕腰を落とす
- 〔第3段階〕手の動き
- 〔第4段階〕顔の表情

### ◆特典映像②④：個別評定

子どもたちのユニークで個性的な動きを引き出す秘訣は「個別評定」だ。

特典映像②では、10点満点にもかかわらず、11点、12点の動きまでもが次々と生まれている。

### ◆特典映像③：入退場練習

演舞が最初足だけから始まり、続いて腰、手・顔をつけて完成という組み立てになっ

ているのが面白い。(※1994年から)

### ◆特典映像⑤：運動会演舞

万糸乱れて！映像からも子どもたちが個性豊かに演舞する姿が伝わってくる。

## 2. 本資料集掲載の向山実物資料

本資料集には、以下の実物資料が収録されている。

- (1)向山洋一『学年通信? No.15』雪谷小学校5年、1990年、向山実物資料 A112-05-01-15
- (2)向山洋一「阿波踊り往復書簡」1994年、向山実物資料 A63-26-01
- (3)桜木泰自『第11期教育技術の法則化 No.110』明治図書、1992年
- (4)村田斎『楽しい体育の授業 No.39』1993年、向山実物資料 A63-26-03
- (5)師尾喜代子『教育トークライン』1993年12月号、東京教育技術研究所、p.54-57、他

なお、解説は桑原和彦氏である。

### 特典映像①

<https://vimeo.com/1158040337/77a8a9ec95>

### 特典映像②

<https://vimeo.com/1158041214/2436217beb>

### 特典映像③

<https://vimeo.com/1158040109/379df43fc4>

### 特典映像④

<https://vimeo.com/1158039910/932063be59>

### 特典映像⑤

<https://vimeo.com/1158039566/3a83a9e98a>



1990.6.1 (金)

5年 学年通信

No.15 向山版

なぜ阿波踊りが

一人一人が輝き出して!!!

どうして「阿波踊り」を選んだのかという理由も一応はあります。運動会で演じられる種目はさまざまです。

力強さを表現したものもありますし、集団の美を表現したものもあります。それぞれに工夫もされ、すばらしい出来栄です。

私たちは、一人一人を表現させたいと思いました。

一人一人の個性を見ていただきたいと思ったのです。

130名もの子どもたちが演技するとき、一人一人の個性を発揮させるのは可能でしょうか？

私たちは「阿波踊り」なら可能と思いました。

「阿波踊り」は、基本の動きは同じですが、「ぶり」は一人一人ちがうからです。いや「一人一人ちがうぶり」こそ、「阿波踊り」のすばらしさです。

問題は「一人一人の個性的なぶり」を、持ちさせることが可能かどうかです。これは、教えてできるものはありません。

一人一人の心の中、身体の中にかくれていたものを見つけさせ、ひっぱり出す教育です。

「教える教育」から「ひっぱり出す教育」へ、方針を変えねばなりません。

最初、指導したとき、大半の子は（おおよそ80%の子は）、いやいやでした。動きも、構立ちものごとのです。

これでいいのです。教育は、こういうところから始まるのですから……

「みんなもって真剣になって……」というふうなお説教はしませんでした。

朝会の後、学年全体に10分程度、3回ほど教えた後、私はテストしました。  
「できている子」と「できていない子」を、一人一人教えたあげなくては、自分  
から変化させようと思いません。

私は、目のすぐいスピードで点をつけていきました。10点満点です。  
ほとんどの子は、1点か2点です。

130名のテスト時間が10分位です。これは時間か短方がいいのです。  
「今日は初めだから、3点までが合格です。不合格の人もう一度いら(せ)い」  
こうしてテストをくり返します。

棒立ちの子は、いつまでも0点、1点です。

しかし、多くの子は、次に合格します。パンパイをやる子もいます。  
何度も何度もさせて、その日に全員「3点合格」にします。  
次は「4点合格」を伝えます。

こうして、昨日は可と、全員10点合格です。11点の子は何人もいました。

11点の子は、ビデオで見た「本場の人気者」と勝負できる水準です。

図工の塚月先生が「一人一人の個性が、みんなに表現されている素晴らしい  
てだ」と、ほめて下さいました。

一着に練習する子の子の先生が、「5年生は、争しく練習するのね。1度もど  
なるのを見たことがない」と言って下さいました。

そうです。私たちは「阿波踊り」の練習で一度もどなりませんでした。大声  
も出しませんでした。テストの時、なかなか合格しない子には、クラスのみ  
んなが教えていて、常に教気に満ちたものでした。

子どもたちは、もっとやりたいというのですが、予定の練習を3回ほど削り  
ました。全体練習係りの仕事で子どもたちもつかれていたので。

運動会の日、どうか一人一人を見て下さい。教師と子どもとの教気(き)に満ちた  
合作(さ)りのです。一人一人の表情とふりを...くみこみおこしを見て下さい。

紫陽花の花がきれいに咲きそろそろ季節となり。梅雨入りも  
間近といったところですが、さて。

先生が御多忙なお方と存じていますが、「教室ツウエイレ」を購読  
するまで、先生の曰阿波踊り口の指導に興味をひかれ、「いつか  
は我々も運動会でもやってみたい」と思いつつも、数年が過ぎたしま  
いました。本年度、秋の運動会に向けて、挑戦してみようと決  
心もついたのですが、指導上参考となる資料がごぞろぞろなら、  
教えて頂きたいと思ひまして、連絡をさせて頂きました。曰阿波踊  
り口の指導に関する出版物が、あまのかいとかもわかりませんが、  
御無理なお願ひとして申し訳ありませんが、市販されていなければ、  
先生の方から直接送付して頂きたいと思ひます。送料代  
送料等、振込致しますので、ご希望なら、是非、連絡して  
下さいますようお願い申し上げます。

<向山>

( )

1. お葉書をお見しました。返信用ハガキでは書ききれないことも  
ありますので、このように書いています。なお、同様の値内とされる方もい  
まは、「新装一冊、読み指導」でいたしておきます。

2. 向山氏、阿波踊り指導は、次の本に入っております。

- ① 「第11期教育技術の法則化」第110巻 (1992.2月刊) 明治図書
- ② 「楽しい体育の授業」NO.23 臨刊 (1991年刊) //
- ③ 「楽しい体育の授業」1993年8.9月号。 //

これらの本は、いずれも書店でとりよせることが可能です。

3. これ以後の実践記録等もあります。必要なら中央事務局の桜木邦  
大氏の返信用封筒と同封にてご連絡下さい。

〒104. 東京都中央区佃1-3-4. 桜木泰自。

4. 阿波踊り指導は、大書に付属です。通常の民舞指導の如きの踏向で大丈夫です。  
できあがりは、すなわち、何とどの学校も人気NO.1となっております。

何れも、指導そのものが楽しいです。どの必要も全くありません。楽しんで笑  
いながらやることだらけです。子どもも、自分で挑戦してきて、次に上手になります。

5. 10L. せりり指導のポイントがあります。自己流のやりかたも減らします。  
阿波踊り指導は、三つのステージがあります。

ア一は、阿波踊りそのものを教える。

ア二は、子どもも踊りを一人一人評定する

ア三は、当日の心構え、準備と受ける。

通常の指導とは「阿波踊りそのものを教える」で、終えてしまうのではなく、

向山式では、入りの1=アキマセン。比費は10%。この個別読定が80%。

向山式の可成り工はここにあり。ホニスリジ講義a比費は10%で。

6. 私「阿波踊り」を4つに分けて教えます。どのお！先にシラソル。極めシラソル。120名の子もた5に。この4つを2とわけて教える。子どもは、何分も分らない。朝礼の後、その場に子どもを5分ずつ4回もやわら、完了です。

7. 次に、個別読定をします。(教師の中からは「個別読定とアキマセン」と言う人がいます。とんでもないこと。読定アキマセン。子どもは燃え、我に押し合と奮闘し、創造と直観の喜びを味わう。です。

個別読定とは、人は、子ども1つを最低10分1=アキマセンとわけて差別製造者です。子どもは可能理の破壊者です。口当りの1111と云う。子どもの成長と止めて、子どもの高です。人間の可能理の大事を知らず、至る人の子の持ち方。子どもの進歩と理解で、未知の理の欠如に、いふ人です。)

個別読定は、7つ2=アキマセン。次に、行く、です。

「今日の命巻は2巻。2巻以上は、生かす(3)=アキマセン。その下は、5. も一度、アキマセン」

この読定は、アキマセンの、アキマセン。アキマセン(10)アキマセン(5. アキマセン。120名、命巻と終りの、アキマセン。アキマセン、アキマセン、アキマセン。

読定=阿波、アキマセン、アキマセン。アキマセン、アキマセン、アキマセン、アキマセン、アキマセン、アキマセン。



10. 学習を促すため、下合の手には、子どもが安心して踊ることに留意。  
 上手に踊る。また手は、こぼれず。子どもが学習できるように。  
 踊る時は、誰かの手を引いて。『踊る踊るとは踊る手』、西高  
 滝は、そのこと大切だ。  
 せよ、おもしろいことだ。

向山洋一

## 大好評！ 向山式阿波踊りの追試(1)

— 足の動きを教える —

桜木 泰自

向山洋一氏から、「運動会の表現では、阿波踊りを指導すると面白い。」と話をうかがった。阿波踊りの効用として、向山氏は次の3点をあげた。

- ① 他のものとは比べ、指導時間が半分くらいですむ。
- ② 子どもたちが喜んでいきいきと踊る。
- ③ 観客、親に大好評である。

実際の指導法を実技を交えて教えていただき、さっそく追試をした。対象は5年生2学級、71人である。

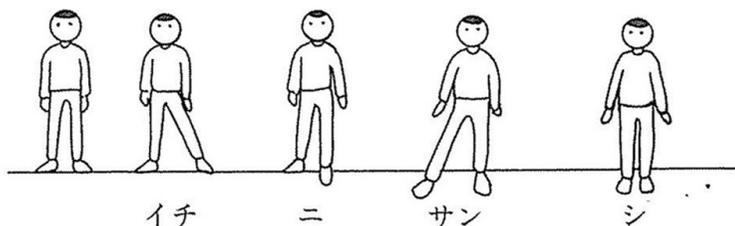
踊りそのものの指導は、4つの段階に分かれている。

### [第1段階] 足の動き

阿波踊りは、イチ、ニ、サン、シのリズムで足を動かします。

と言って、右図のように足の動きを実演してみせる。

ここでは、単に足を動かす、前に歩くだけである。



162

8～10人くらいずつを横に並ばせ、教師の「イチ、ニ、サン、シ」の掛け声に合わせて歩かせる。2，3回でほとんどの子ができるようになった。3人ほどとまどいをみせていたが、教師が目の前に立って一緒に歩くとすぐにできるようになった。

「イチ、ニ、サン、シ」のかわりに、「左、前、右、前」と言うのも効果的である。

[第2段階] ガニまたで歩く

今度は、今やった動きを、ガニまたでやります。

「えー。」という歓声があがった。かまわず、「先生がやってみます。」と言って、教師がやってみせる。大笑いになる。すぐにまねしてみる男の子が数人いる。これを見逃さず、「そう、そう、うまい。」とほめる。

間髪をいれずに、また8～10人くらいの列ごとにやらせてみる。なかなか腰が下がらない子が半分くらいいる。恥ずかしさと不器用さからだ。

そこで、個別に審査をする。

向山氏に教えていただいた審査法は、次の通りである。

- ① 5，6人を一組にして、横に並ばせる
- ② 一組ごとに歩かせる
- ③ 一人ひとりを10点満点で審査する
- ④ その日の合格点を決めておき、これを段々と高くしていく（最後の練習では全員に10点以上をつける）
- ⑤ 100人を3分位で審査する

私はまず、4点を合格とし、71人全員を2分ほどで審査した。1回で合格

する子は、男子が3割、女子が2割ほどであった。2回目は子どもたちが俄然はりきる。8点、9点といった高得点がでるたびに歓声があがった。数名を除いて全員が合格となった。

ここまでが初日の指導。約20分間である。教室にもどってからも、「再審査」を求める子が続出した。

## 大好評！ 向山式阿波踊りの追試(2)

—手の動きをつける—

桜木 泰自

### [第3段階] 手の動きをつける

2日目の指導。まず第2段階までを復習した。子どもたちのリクエストに応じて、ここでも10点満点で審査した。合格ラインは5点とした。

この後、いよいよ手の動きを教える。

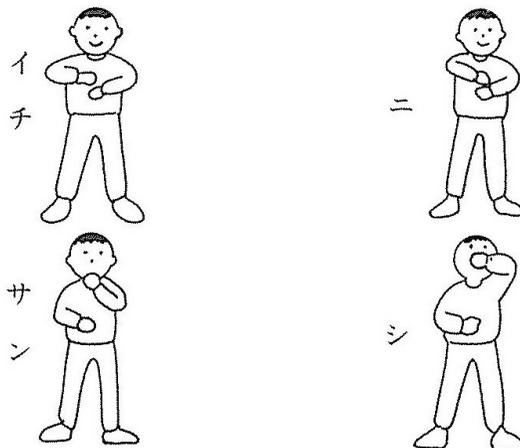
次に、手の動きを練習します。手の動きは4拍子になっていればどのようになっているともかまいません。自由です。一人ひとり自分で考えてもらいます。

先生が1つ例をやってみます。先生は、大好きなビールを飲むようにして、こういうふうな4拍子にしました。

と言って、右手にビールびん、左手にグラスを持つようにしてやってみせる。

「イチ、ニ、サン、シ」と言いながら、右図のように4拍子で飲みほすまねをする。

子どもたちからは笑いと拍手が起こった。



では、自分の手の動きを考え出してください。できた人は先生に見せにきなさい。

子どもたちはなかなか動かない。周りの目を気にしているようだ。その中で一人、二人上手にやっている子がいる。私はその子たちに近寄り大声ほめた。

「うまい。野球のバッティングだね。うまいねえ。」

「いいね。バナナの皮をむいて食べているところだね。かわいいよ。」  
などと言うとよい。

上手な子をほめると、波及効果が起こる。

手の動きが決まった子には、足を動かしながらやるように指示した。

この日の練習はここまで。約20分間である。翌日までに手の動きを考えることを「宿題」とした。

3日目、手と足を同時に動かすところから練習。家で練習してきた子をめる。

ここでまた、6人ずつ横に並べて審査をする。すばやく点数を告げているのがポイントである。

手と足がうまく動かない子がいる。恥ずかしがってガニまたにならないもいる。しかし、どなったり、しかったりする必要はない。審査を繰り返せば、どんどん子どもたちはのってくる。必死になって踊る。合格したとき子どもたちは跳びあがって喜ぶ。この日は40分間練習した。

## 大好評！ 向山式阿波踊りの追試(3)

—顔をつくる—

桜木 泰自

### [第4段階] 顔をつくる

4日目の練習。手足の練習をした後、「顔」について次のように説明する。

阿波踊りの顔について話をします。「えっ。顔変えるの？」と子どもの声) そうです。顔は変身させます。今、自分の目の前に鏡があると思ってごらん。その鏡を見たときに吹き出して笑ってしまうような顔をつくります。一番おかしい顔をするのです。

子どもたちはガヤガヤするが、かまわず教師がおかしな顔をしてみせる。

「さあ、みんなにもやってもらおうよ。さんはい。」と言うと、ものすごい顔をする子が10人ほどいた。もちろん大げさにほめた。顔をつくらぬ子が女子に多くいたが、初めなのであまり強くは要求しなかった。

手・足・顔とそろったところで、またまた審査をする。合格ラインを7点にする。多くの子が燃える。ものすごい顔をする子が一人、二人と増えていく。この日も40分間の練習だった。

翌日は各クラス、教室で練習をした。

そして、5日目の練習。

初めに子どもたちに次のような話をした。

校庭で練習をすると、恥ずかしいと感じる人がいると思います。他の学年の人や先生方に見られると笑われるんじゃないかな、と思う人がい

ると思います。

恥ずかしく思うことはありません。阿波踊りは笑ってもらったら大成功なのです。

考えてごらん。君たちは運動会るとき「つまらないなあ」と思ったものはよく見ないでしょ。見ないでおしゃべりでもしているでしょ。（子どもたちはうなずく）笑われるということは、それだけよく見られているということなんです。おもいきり笑われるくらいの踊りをしよう。そうすれば大成功なんだ。きっと大きな拍手をもらえるよ。

この話は思いつきだったが、効果があったと思う。「先生、3階の窓で6年生が笑ってたよ。成功でしょ。」などと言う子が数人いた。

また、職員室にいる先生に見に来ていただくようお願いをしておいた。

この日は初めてテープの曲（詳しくは後述）をかけた。もちろん審査をしながら、20分間練習した。



## 大好評！ 向山式阿波踊りの追試(4)

— 「連」と隊形をつくる —

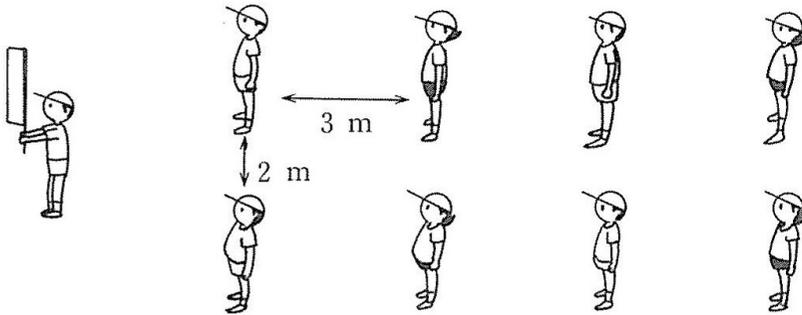
桜木 泰自

阿波踊りは「連」とよばれるグループごとに動く。私の場合、1学級を4つの連に分けた。全体で、

8, 9人ずつの連を8連つくった

のである。(男女混合とした。)

1つの連のならばかたは下のようになる。



先頭の子が、連の名前を書いた旗（詳しくは後述）を持つ。

踊りが上手な子を前方に配置する。

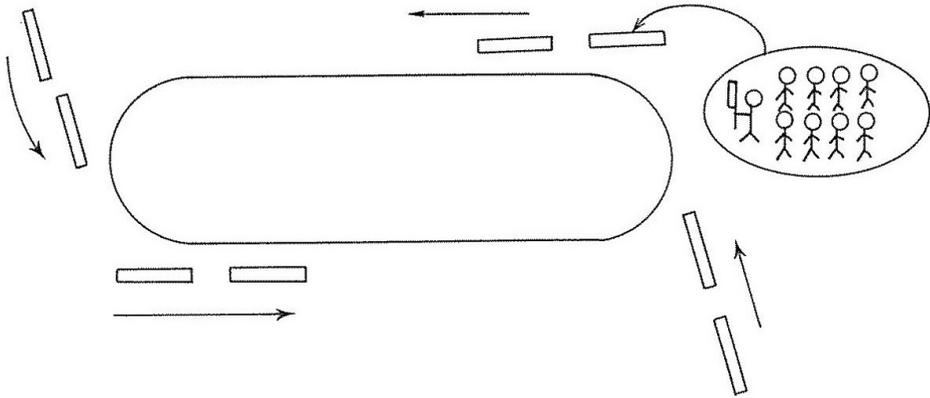
間隔は、縦約3メートル、横約2メートルとした。

このならばかたを決め、練習をした。6日目40分間である。

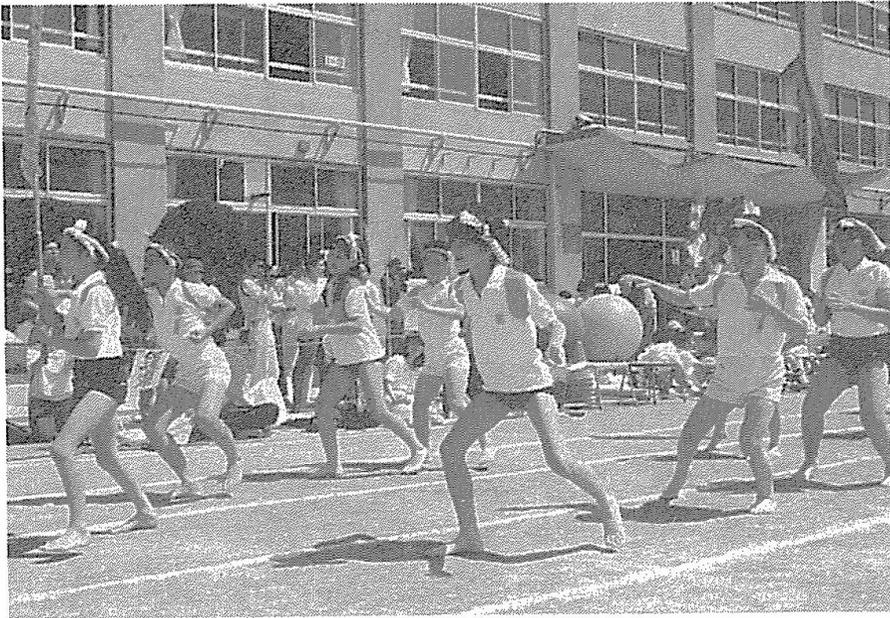
7日目、いよいよ本番さながらの隊形をつくる。

トラックを1周するという単純な動きとした。

トラックの一番外，6コースと4コースを歩かせた。距離にして約150mである。四方から2つずつの連がスタートすることになる。全員が1周することにより，どの観客にも一人ひとりの表情を見てもらうことができる。



7日目40分間の練習。その後，8日目20分間，そして運動会前日1回の通し練習をした。



## 大好評！ 向山式阿波踊りの追試(5)

—用具，そして大反響—

桜木 泰自

カセットテープは次のものを買って使った。

「決定版 民謡をたずねて 23 四国編」(キングレコード) 937円

歌も入っている。3分20秒なので、ダビングしてつなげた。(運動会本番は4分間位であった)

旗は、2.5m程の竹竿にあざやかな色の布をつけた。連ごとに色を変えた。

子どもたちに連の名前を考えさせ、マジックで書かせた。

次のような連ができた。

にこにこ連， Donald連， 朝連， サイ連， ひなんくん連

子どもたち一人ひとりのかっこうは、



体育着にタスキに豆絞り，そして裸足とした。

タスキは連の旗と同じ布を使った。長さ1.5m幅15cmに切ったものを配った。

豆絞り(てぬぐい)は家から持ってこさせた。半数くらいの子が持っていなかったが、踊りを習っている家の子が大量に持ってきてくれた。

運動会後の反響がすごかった。全校の保護者対象のアンケートで、興本流・阿波踊り(学校名から私がつけた)が、「特に印象に残った種目」のダントツ1位になった。

「一人ひとりの表情がとてもよかった」、「今までにない見ごたえのあるものだった」、「来年からも毎年やってください」といった声が他の学年の親からも集まった。

子どもの作文の一部を紹介する。

笑われた瞬間、大成功したと思いました。阿波踊りは、はずかしかったこともあったけど、楽しかったです。運動会が終わって、お母さんに、阿波踊りどうだったと聞いたら、

「とてもよかったし、おもしろかった」と言いました。

ぼくはよかったと思いました。なぜなら、いっぱい練習してやっておもしろいとかいわれたのでうれしかったです。

追試をして気づいたことをまとめてみる。

- (1) 手と足を同時に動かすことが最初のうちはとても難しい。焦らず、上手な子をほめておく。
- (2) 腰と顔がとても疲れるので4分間位が限界である。
- (3) 女子はなかなか顔をつくれな。素颜でもかわいい。
- (4) 向山氏式の「個別審査」で子どもたちは熱中する。
- (5) 「笑われたら大成功」の話が効果的だった。

向山氏によれば、一人ひとりバラバラに歩かせるのもおもしろいという。

また、この阿波踊りを2年生にも指導したことがあるという。

向山式阿波踊り、大反響間違いなし。「ダンス」の指導初めての私でも9日間でできた。ぜひお試しあれ。

●村田齋『楽しい体育の授業 No.39』1993年、向山実物資料 A63-26-03

# 「阿波踊り指導」から見えた 向山洋一氏 評価における微細技術

「体育授業の腕が上がる一日講座」が東京で行われた。

向山洋一氏による「向山式阿波踊り指導」実技講座は参加者に大好評であった。

わずか60分の指導で、まったく知らなかった踊りを、参加者一人ひとりが個性的に自分流の阿波踊りの形として身につけていった。

向山氏の講座を受けながら、自分自身の上達にびっくりしたという感想が多く寄せられた。

指導が進めば進むほど、楽しく意欲的に取り組むようになる最大のポイントは評価の方法であった。

下の写真の①、②は阿波踊りの動きを知り、初めの段階の踊りの様子である。

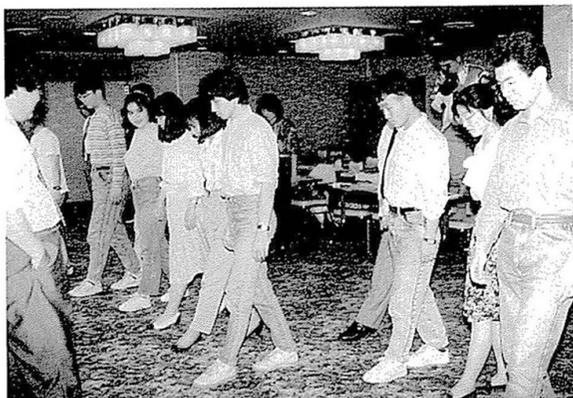
③、④は最終段階の踊りである。

このような激変変化をよぶ向山氏の評価のポイントを示す。

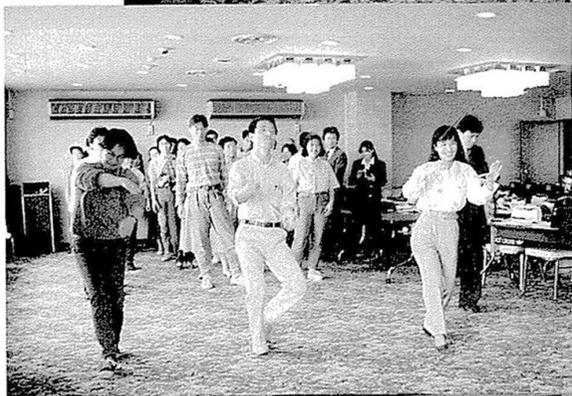
大田区立東栴谷小学校



村田 齋



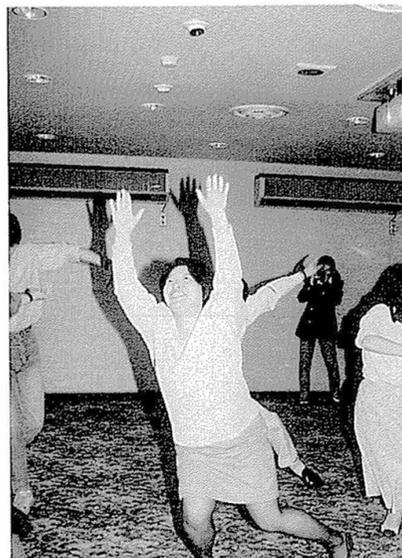
①



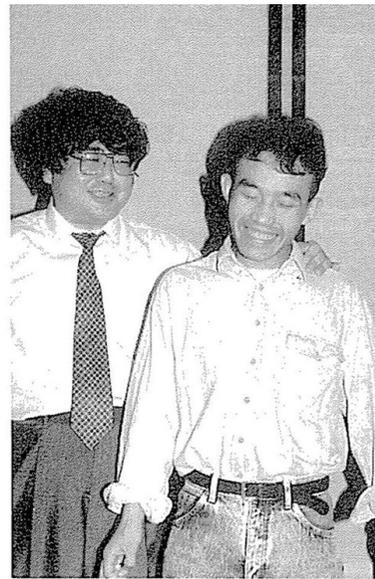
②



④



③

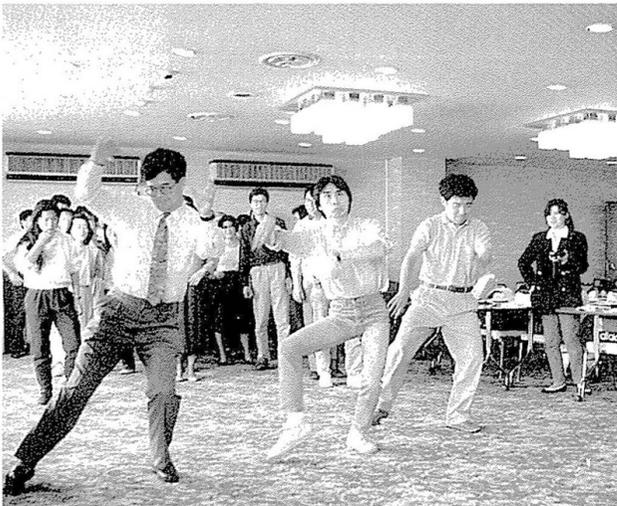
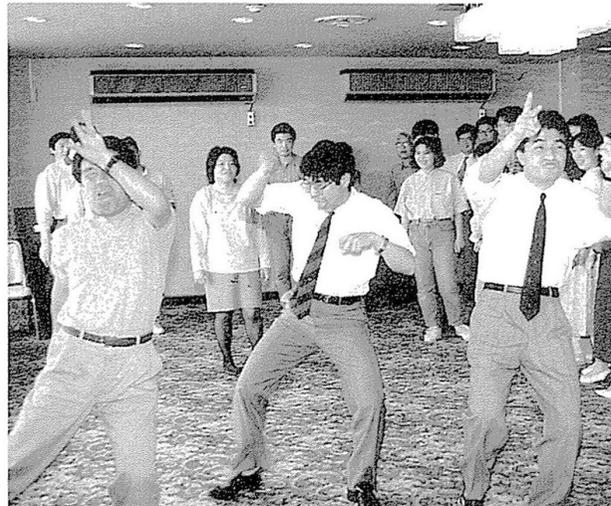


面を作る時は次のように言つて例を示す。  
「先生の手が顔の前を通つたら、一番ひどい顔を  
作りなさい。」

微細技術③

そのままの「面」を認める。

ひどい顔にしなさいと言つてもいやがる子もいる。  
「明るくこやかに顔ならいいよ」とむりに面を  
作らなくても認めてあげよ。

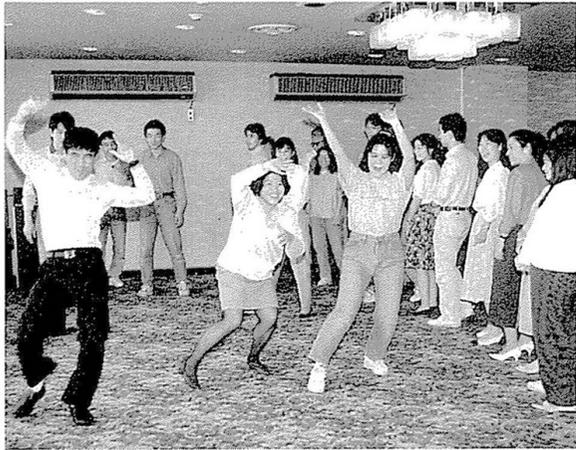


微細技術で受講者の動きはみるみるよくなつていった。

微細技術④  
ほんのちよつとの子どもの工夫を見抜き、  
現させ、ほめる。

微細技術⑤  
一人ひとりを評価する多彩な、短かい言葉  
けをする。同じ言葉しか出ないのは勉強不足  
ある。

微細技術⑥  
終始にこやかに指導する。

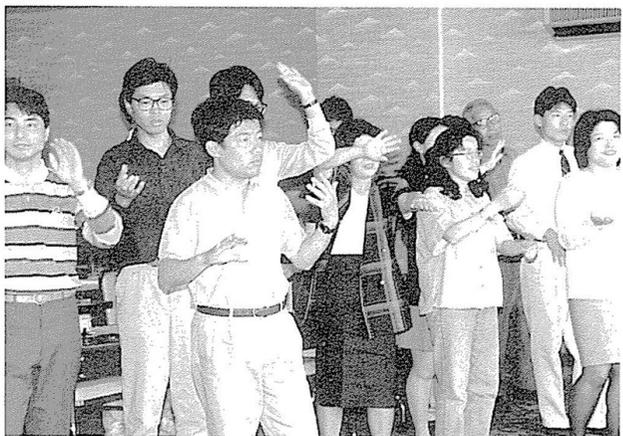


10点の踊りである。子どもたちは、さらに11点、

「阿波踊りの指導」における向山氏の評価

阿波踊りの手足の動きを覚えた後の動き作り段階での評価の観点は次の点である。

評価の観点1  
手と足の動きがスムーズであるか。  
(まごちなくないか)



一回目の指導では、十点満点で二点とれば合格とする。

評価のスピードがすごい。三人ずつ踊らせ、前述の観点で、驚くべき速さで評価していく。

評価の原則  
その時間の内に全員合格させる。



99%ではなく100%合格である。



微細技術1  
何度やり直しても平気な子のほかは、少なくなったらほめて合格にする。

微細技術2  
点数をどんどん上げていって踊り込ませ  
右の写真のように踊り込んでいくと、動き  
しゃくした所が消えていく。  
毎時間一点ずつでよい。細かいステップで  
せるとよい。  
手と足の動きがスムーズになったら次の観  
点  
える。

評価の観点2  
面を作って踊っているか。

導を見ることができた。

音楽を流したまま、

①「足だけ動かさない。」

これだけの短い言葉を音楽のじゃまにならないようににはつきり、リズムミカルに三回ほど仰った。

その言葉で、子どもたちは魔法にかかったように動き始めたのだ。はじめは、あちこちで、

ほんの数人の子が動きはじめ、そこから、池の波紋が広がるように、動きが広がっていくのだ。

あちこちでおきた波紋がきれいに全体に広がるのに二分とかからなかった。

②「次は、手をつけなさい。まわりとぶつからないように。」

音楽を流したままであるが、言葉は短くはつきり、聞きとりやすく、音楽を妨げない。

もつれた糸がほどけるように、かたまつたところがなくなり、体育館全体に広がっていく。

③「動き出しなさい。」

ゆっくり走り出す新幹線のように、全体が動きはじめ、やがて、体育館に円を描き流れはじ

めた。

私は子どもたちの動く様子を、きつねにつままれたような思いで見守っていた。

これまでもこうしたことは何度かあった。気がつくとき馬場の組が出来上がっていたり、説明を聞き終わるとききれいに図式化されていたり…。

どこにも無理がなく、いつも自然なのだ。

やっと助走で阿波踊りの動きができるようになった後、

④「点数をつけます、各組一列にならびなさい。」と二人ずつ踊らせ点数をつけていった。

「三点で合格です。」

ほとんどの子どもが合格する。私にはいつもよりずっと甘いように感じた。なぜか？

⑤「次は五点到挑戦する人！」

向山先生の声に、三点点合格の子どもたちがどっと動いた。五分程前に全く動かなかつた子どもたちが、我先に踊り、挑戦して来るのだ。向山先生は、一見、甘すぎると思われる三点点合

☆となりの席の女・発 第33回

# 阿波踊り、鼓笛隊指導・ふたたび

もろお 喜代子

(東京都大田区立雪谷小学校)

この「となりの席の女・発」の原稿に限っては、書くネタがないということがない。

向山先生と同学年を初めて組ませて頂いた時より、四年目に入った現在の方があらくらいなのだ。

向山先生は、それほど、奥が深い？ 偉大？ 普通（常識的な私）と違っている？

今月もどれにしようか迷っている。

二学期の大きな行事の一つに連合運動会（区内の近隣校六校合同による運動会）がある。六年生が代表してその運動会に出るのだが、我が校は、「阿波踊り」で参加することにした。子どもたちに告げると多くの子が喜んだ。反応から

昨年運動会の際が期待できると思った。

雨が降り水泳ができないので、学年で体育館で阿波踊りをすることにした。一年ぶりである。

ところが、阿波踊りの音楽を流してもだれひとり踊らない（どうしたのだろう）。

忘れたのか？

いやなのか？

ざわざわしているだけで、全く踊ろうという気持ちさえみえない。

私は、音楽さえ流れれば、当然、子どもたちは勝手に踊り出すと思っていた。

しかし、子どもたちが踊らないおかげで、また、向山先生の見事としか形容の仕様がな

「○○さん、リズムが半拍だけずれています。」  
「○○さんも、 $\frac{1}{3}$ くらいずれています。」  
と、一三名のうち、五名だけ名前をあげ、指導された。

先週の指導が、子どもたちの頭をよぎるのか、今週はすばらしくそろっている。

行進が終わるころ、どこからともなく向山先生が現われ、指導が入った。

「○○くん、 $\frac{1}{3}$ くらい合っていない。」

「○○くんも同じです。」

「○○くんは、合っていないとは言いませんが、 $\frac{1}{10}$ くらい、かすかにずれています。」

三人の注意の後、

「あと、一人、だれだったかな。黄色い半ズボンはいっていたけど。」

子どもたちを見渡し、行進の足が合っていない子を探す。緊張が、子どもたちを包む。

「ええと……わすれた。」

向山先生のやさしい笑顔に子どもたちはホッとする。が、思い出して、その子にちょっと注意

する。

その日もやはり見ていた。そして、全体に行進がきわめてそろってきれいだったことをほめた。そして、いつものチェックが入った。

「楽器を持っている人だけすりわりなさい。」

今年の三月からの毎回のチェックである。

その日、はじめて、学年全員が楽器を手にしていた。「楽器を学年全員が持つ」という、簡単でシンプルな指導でさえ、徹底させるのに半年かかったことになる。学年全員、一人も欠かさず、楽器を持たせることは、簡単ではないのだ。当日の朝、放送するとか、何らかの手だてを加えれば、またちがうかもしれないが、向山先生の指導はそこにはない（と思う）。

月曜日の朝会の、鼓笛隊演奏は、ずっと続いてきた六年生の仕事であり、責任である。楽器を持ち、演奏の一端を任うことが、六年生の意識そのものであるのだ。半年にしてはじめて、小さな意識がそろったことになる。そのための指導時間、毎回わずか十秒である。

格に、子どもを動かす計算をされていたらしい。

もう、そこまで来れば、昨年と同様である。

合格しない子を合格した子が教えはじめ、

あつという間に、十点合格挑戦である。

子どもたちののりにのせられて、向山先生も、

楽しそうである。

その近くに、男子が数名すわりこんでいる。

何をしているのかと見ていると、向山先生と同じ調子か、もつとはやく点数をつけている。そ

して、その点数が向山先生と同じかどうか確か

めているのだ。それがほとんど当たっている。

「かすかに、足があつていない。」

向山先生の口調が子どもの口からとび出る。

私は思わずふき出してしまふ。点数をつけるこ

とができる子は、多分、 $\frac{1}{10}$ のリズムのずれを

感じとっているのだ。

点数つけを遊びにして楽しんでいる子は、ほ

とんど、やんちゃな男子である。

何ヶ月か前に、鼓笛隊指導について書かせて

頂いたが、その後も、「シンプルにしつこく」の

指導は続いている。

毎週月曜の全校朝会の後は、六年生の鼓笛に

合わせて、全校児童が入室する。

向山先生は、行進について、五年生の時には、

「音楽をよく聞いて。」

と指導され、時々、子どもたちの横を歩き、

「○○さん、足があつていません。」

と注意していた。

さて、それが、六年鼓笛になり、どう変化し

たか。

板倉先生が、今週の月曜(9/27)の朝、校庭

の朝会の時、私に小さな声で話しかけてきた。

「向山先生の姿が見えませぬ。子どもの足を

見る人がいなくて困りますね。」

こう書くと、なんだ、板倉先生も師尾も、子

どもの行進の足も見られないのかと思われる方

もおられるだろう。

ところが、どっこい、見られないのだ。

先週も、鼓笛演奏が終わり、全体がそろった

ところで全員をすわらせ、

## 希望ヶ丘商店街盆踊りのお願い

運動会の五年生の「河波踊り」が大好評でした。商店街の盆踊りに特別出演を依頼されました。ぜひ、もう一度見たいとのこと。期日に自宅にいる方は、ぜひ出演して下さい。

1. 期日 8月25日(土)、26日(日) = 2日間
2. 時間 6:00 ~ 7:00
3. 場所 希望ヶ丘商店街.
4. 服装 ふだん着又は浴衣  
たすき・豆しぼり(学校のものを貸します)  
うちわなどの小道具(各自が考えて)
5. 並ぶ方 運動会と同じく各クラスの連で踊る。
6. のぼり 高木靴店で預っていただく。
7. 集合 両日とも5時50分に高木靴店前集合
8. 担当 高木さん  
都合のつく各クラスの委員さんと商店街関係の方々お手伝いをお願いします。  
(学校からは、校長又は教頭が参加します。担任は、都合がつけば顔を出します。)
9. お願い。 お父さんお母さん、ぜひ応援して盛りあげて下さい。

# ウエイ〔号外〕

'94. 6. 7 (木)

運動会の作文の時間に書きました。

<文責 師尾>

## — 阿波踊りと子どもたち —

阿波踊りほど、子どもたちの個性を發揮させる演技はない。(と思う)これは、雪小で三度(平成2年度、4年度、今年の運動会)にわたって、阿波踊りを指導し、子どもたちを見ての私の実感である。

はじめて、阿波踊りを見た子どもたちは、それを自分がやることにうろたえる。すぐとりに志子はいるが、多くは抵抗感を持つ。それが、どうしたことが十日程たつと、不思議なほど自分そのリにえ、踊りはしめる。自分の手であるいは、友だちの助言を得て、自分を育てていく。

指導は、一人ひとりの評価におて行われる。合格できず、何度も何度も挑戦してくる子どもたちは、かわいい。そして、知的で美しい。

十点合格の日、驚くほど成長した子どもたちを見て、私は、いつも目から汗が出そうになる。体育館の熱気は、気温のせいだけではないだろう。

口には出さなかったが、今年は、はじめのころ、子どもたちの練習を見てこれまでの子どもたちには、遠く及ばないのではないかと思っていた。のりが悪いと感じていた。はじめてやった子どもたち(平成2年度)は、多くの観衆に驚かれ、絶賛された。一年生からアコールそうけたほどだ。次の子どもたち(平成4年度)は、多くの子が、はじめからやりたかった。

これまでの二回の阿波踊りと比べるとはたはたが、自然にこれほど重ねあわせている船に気づく。

今年もまた上手だった、驚くほど上手だった。はじめの私の予感も明らかにちがっていた。子どもたちにおびなければならぬ。

雪小での阿波踊りは年を経て、伝統上なりそうな気配である。

これまでのたくさんのおもむきの子に、それぞれのドラマを生んで……。



# 全国の学校に広がる ニャティティソーラン！

ニャティティソーランは、ケニアの「ニャティティ」と日本の「よさこいソーラン」が1つになって生まれた音楽です。

2008年、ケニアの高校生と日本人ダンサーが、札幌の「よさこいソーラン祭り」で一緒に踊り、TVや新聞などでも大きく紹介されました。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、ダンスも音楽も新しくなった「ニャティティソーラン2020」。踊っている人も周りの人も元気になるとても楽しいダンスです。さあ、みんなと一緒に踊りましょう！

ニャティティ奏者・日本ケニア文化親善大使  
アニャンゴこと向山恵理子



すでに日本全国で、のべ1000クラス、10万人以上もの子どもたちがニャティティソーランに熱中しました。

ニャティティソーランの曲が、かかるたびに踊り出します。





# NYATITI ONDO | ニヤティティ音頭 ニヤティティ音頭ダンスマスターセット

2026.3.22 Release



ケニアのニヤティティ音楽が日本の祭りの音頭と融合!?



ユニークで新しいダンスミュージックが誕生した。

音楽にのって踊れば、心も体も解き放たれ、皆に笑顔が溢れ出す!

大地を感じる、史上最幸のプリミティブダンスナンバー!!

ニヤティティ音頭ダンスマスターセット 運動会、体育の表現運動に、ダンス指導に最適!

- ① 小学生も3日間で踊れるようになる指導書
- ② 部分練習もできる映像指導のDVD
- ③ オリジナル音源のCDセット

+ お買い上げの方には、全データ無料ダウンロード付き

価格：¥8,800 (税込) 品番：JOWI-017

企画：向山洋一教育技術研究所

製作：JOWI music

協力：TOSS

販売：教育技術研究所

URL：<https://tosskyozai.com>



予約サイト



NYATITI ONDO | ニヤティティ音頭 価格：¥1,650 (税込) 品番：JOWI-016

Anyango のオリジナル楽曲『ニヤティティ音頭』収録のCD (3曲入り)

ダンスの通し練習や部分練習もできます

プロデューサーに、音の魔術師・ゲーム音楽の鬼才、深澤秀行氏を迎え、新たな音楽ジャンルに挑戦

Anyango：<https://www.anyango.com/>

# ニャティティソーラン 2020

ケニア・ルオー族の伝統楽器「ニャティティ」と日本の「よさこいソーラン」がひとつになって生まれた踊りです。

延べ34万人の小学生が踊っています！

踊っている人も周りの方も元気になる楽しいダンスです。



## ニャティティソーラン 2020 CD

価格：1,500円 (税込)

商品ページ：<https://tosskyozei.com/?pid=185243262>



## ニャティティソーラン 2020 ダンステキスト

価格：1,500円 (税込)

商品ページ：<https://tosskyozei.com/?pid=185243264>



## ニャティティソーラダンス 2020 指導 DVD

価格：6,000円 (税込)

商品ページ：<https://tosskyozei.com/?pid=185243263>



販売サイト



## 合唱教材 アレゴへの手紙

合唱コンクール、合唱祭などにぴったりの曲です！

Anyangoの「アレゴへの手紙」を、全国の音楽指導に精通したTOSS音楽の先生方と合唱教材として制作をしました！

合唱指導がすぐにできる、譜面・指導案冊子付です！

譜面動画・音源データ付属なので、生徒自身がタブレットなどの端末で自習することもできます。

価格：4,800円 (税込)

商品ページ：<https://tosskyozei.com/?pid=185501013>



販売サイト

## Anyango | アニャンゴ

東京生まれ。アフリカの音楽に魅了され、単身ケニア奥地の村で修業し、現地でも限られた男性だけに演奏が許されている伝統弦楽器ニャティティの世界初の女性奏者となる。

2009年、「ニューズウィーク」誌の「世界が尊敬する日本人100人」に選ばれる。

2010年、FUJI ROCK FESTIVAL に出演し、ワールドミュージック部門のベストアクトに選出される。

2022年、9枚目となるアルバム『AOKO』をリリース。2024年 DUNIA、2025年 To Be Free 配信。

9月にケニアツアーを行い、10月には伝記「ANYANGO NYAR SIAYA (Nyatiti Queen)」【電子書籍版】全世界で発売。日本国内だけでなく、ケニア、フランス、ドイツ、米国など海外の音楽フェスティバルでも広く演奏活動を行っている。

## Nyatiti | ニャティティ

東アフリカに住むルオー族の伝統弦楽器。

もともとは、ルオー族の選ばれた男性だけが演奏することを許された神聖な楽器だった。

いちじくの木をくり抜いて、8本の弦がはられている。





2月特典

No.27 | 2026年2月

## 向山洋一 教育資料

### 1990～ 「向山式『阿波踊り』指導法」

万糸乱れて!「教える教育」から「ひっぱり出す教育」へ

#### 特典映像

##### 向山式「阿波踊り」指導① 体育館練習

<https://vimeo.com/1158040337/77a8a9ec95>



##### 向山式「阿波踊り」指導② 個別評定

<https://vimeo.com/1158041214/2436217beb>



##### 向山式「阿波踊り」指導③ 入退場練習

<https://vimeo.com/1158040109/379df43fc4>



##### 向山式「阿波踊り」指導④ 昼休憩練習

<https://vimeo.com/1158039910/932063be59>



##### 向山式「阿波踊り」指導⑤ 運動会演舞

<https://vimeo.com/1158039566/3a83a9e98a>



発行日 2026年2月6日

発行所 向山洋一教育技術研究所

所在地 〒142-0064 東京都品川区旗の台2丁目4番12号



谷和樹の教育新宝島

<https://shintakarajima.jp>



向山洋一公式ウェブサイト

<https://mukoyamayoichi.com>

このPDFは、プリンタの「冊子印刷」を選択すると冊子になります。  
他人への譲渡および個人研究以外の目的で使用することを禁じます。